

東京都公立学校における防犯・防災教育の実態と課題（調査結果速報版）

東京学芸大学 養護教育講座 渡邊研究室

2006年3月

目的

近年、学校における児童生徒の安全確保が重要な課題となっている。本調査は安全教育、特に現在対策が急務とされる防犯と防災に焦点を絞り、東京都の公立学校での実施の実態と課題を明らかにすることを目的とした。この調査の結果はこれからの学校における安全教育の内容・方法の改善に寄与するものと考えられる。

方法

東京都内の公立小学校、中学校、高等学校、盲ろう養護学校に対して郵送式質問紙調査を行った。小中高校は25%の抽出率で、公立学校リストより系統抽出した。盲ろう養護学校は全数調査とした。調査は平成17年12月に実施した。

結果

回収された質問紙は計353校で、回収率は57.4%であった。校種別の有効回収数は、小学校189校、中学校88校、高等学校26校、盲学校2校、ろう学校7校、養護学校35校で、合計347校であった。各質問に対する回答の実態は以下の通りである。なお盲学校およびろう学校は回答数が少なかったため、両者を合わせて集計した。

1 防犯教育の実施状況について

「あてはまる」と回答した割合は下の通りである。

質問項目	校種（数値は%）				
	小	中	高	盲ろう	養護
1. 防犯教育を年間計画に組み入れている	96.3	87.2	61.5	88.9	94.3
2. セーフティ教室として実施している	94.7	88.6	76.9	100.0	88.6
3. セーフティ教室以外で実施している	58.5	48.1	26.1	75.0	42.4
4. 児童生徒が参加する避難訓練を実施している	86.2	37.6	4.0	77.8	68.6
5. 教職員のための避難訓練を実施している	53.3	35.3	4.0	66.7	67.6
6. 防犯教育に警察関係者が参加している	96.8	89.8	76.9	100.0	91.4
7. 防犯教室にPTA・保護者が参加している	88.4	69.3	42.3	77.8	70.6
8. 防犯教育に地域住民が参加している	59.4	52.3	15.4	75.0	25.7
9. 防犯教育に上記以外の講師等が参加している	22.5	22.1	19.2	11.1	17.6

防犯教育の実施状況は、高校を除きどの校種も実施率が高い。不審者侵入に対する避難訓練実施率や警察関係者の参加率も高く、セーフティ教室以外でも防犯教室が行われる傾向がみられる。

2 防犯教育の対象

質問項目	校種（数値は%）				
	小	中	高	盲ろう	養護
1 全学年・全クラスで行っている	97.3	93.2	56.0	88.9	64.7
2 全学年で行っているが、全クラスは行っていない	1.1	3.4	8.0	0.0	5.9
3 特定の学年のみ全クラス行っている	1.6	2.3	20.0	0.0	2.9
4 特定学年の一部のクラスで行っている	0.0	0.0	0.0	0.0	5.9
5 特定の児童生徒に対してのみ行っている	0.0	0.0	0.0	0.0	14.7
6 その他	0.0	0.0	4.0	11.1	5.9
7 防犯教育は行っていない	0.0	1.1	12.0	0.0	0.0

高校を除く大部分の学校において、全学年・全クラスで防犯教室を行う傾向がみられた。養護学校のみ個別の指導を行っている回答が14.7%みられた。

3 防犯教育の内容

質問項目	校種 (数値は%)				
	小	中	高	盲ろう	養護
1 学校への不審者侵入時の行動	93.7	55.7	7.7	66.7	71.4
2 校外学習時の防犯	19.6	13.6	3.8	11.1	5.7
3 登下校時の防犯	91.0	70.5	1.1	77.8	65.7
4 帰宅後の家での防犯	53.4	19.3	0.0	33.3	22.9
5 帰宅後の外出における防犯	68.8	42.0	1.5	55.6	42.9
6 長期休暇中の防犯	52.9	53.4	34.6	77.8	42.9
7 警察への通報の仕方	33.9	34.1	15.4	22.2	14.3
8 防犯についての地域安全マップづくり	59.3	26.1	3.8	0.0	2.9
9 子ども110番の家についての指導	73.5	38.6	0.0	22.2	17.1
10 薬物乱用の危険性とその防止	54.0	80.7	76.9	22.2	14.3
11 性被害の防止	36.0	42.0	30.8	33.3	28.6
12 万引き等の犯罪行為の防止	28.0	38.6	30.8	33.3	14.3
13 インターネットの安全な使用法	27.5	69.3	57.7	55.6	25.7
14 携帯電話の安全な使い方	15.9	56.8	42.3	55.6	31.4
15 その他	1.1	1.1	3.8	0.0	5.7

不審者侵入時の行動や登下校時の防犯などは実施率が高い反面、校外学習時の防犯、警察への通報の仕方、性被害の防止のように取り上げている率が50%に満たない内容も少なくない。

4 防犯教育の方法

質問項目	校種 (数値は%)				
	小	中	高	盲ろう	養護
1 教室での一斉指導	74.4	45.5	19.2	55.5	20.0
2 学年・全校単位での一斉指導	85.2	86.4	76.9	88.9	68.6
3 防犯についてのロールプレイ	61.9	23.9	0.0	66.7	57.1
4 児童生徒同士による討論・話し合い	5.3	2.3	0.0	22.2	0.0
5 視聴覚機材を用いた指導	49.2	28.4	34.6	44.4	34.3
6 警察等の学外講師による指導	84.7	75.0	53.8	77.8	71.4
7 子どもによる聞き取り調査	7.4	3.4	0.0	11.1	0.0
8 防犯についての地域安全マップづくり	46.6	21.6	3.8	0.0	2.9
9 その他	2.6	2.3	0.0	1.1	5.7

教室での一斉指導よりも学年・全校単位での実施率の方が高い。学外講師による指導が多いのもその理由と考えられる。討論や地域安全マップづくりのような児童生徒が主体的に活動するような学習方法はあまり取り入れられていない。

5 防犯教育推進上の課題

質問項目	校種 (数値は%)				
	小	中	高	盲ろう	養護
1 適切な教材がない	23.8	23.9	19.2	44.4	37.1
2 防犯教育の時間を十分にとることができない	55.0	54.5	42.3	44.4	37.1
3 指導方法がよくわからない	11.1	13.6	19.2	0.0	8.6
4 教職員間の共通理解ができていない	4.2	4.5	15.4	11.1	11.4
5 PTA・保護者からの協力を得ることが難しい	7.9	5.7	7.7	11.1	5.7
6 関係諸機関からの協力を得ることが難しい	2.6	2.3	0.0	11.1	2.9
7 解決すべき差し迫った問題がない	4.2	5.7	19.2	0.0	14.3
8 教職員への研修の機会が少ない	34.4	36.4	34.6	44.4	28.6
9 その他	7.4	6.8	15.4	33.3	11.4
10 課題は特にない	7.4	10.2	3.8	0.0	8.6

もっとも大きな課題は時間の確保である。それ以外では適切な教材が少ない(特に盲ろう養護学校)、研修が少ないという課題が指摘されている。

6 防犯教育取り組みへの満足感

質問項目	校種 (数値は%)				
	小	中	高	盲ろう	養護
十分満足できる	0.0	1.1	0.0	0.0	0.0
おおよそ満足できる	55.6	46.0	16.0	77.8	44.1
どちらともいえない	33.3	31.0	48.0	11.1	35.3
あまり満足できるものではない	10.6	18.4	24.0	22.2	20.6
まったく満足できるものではない	0.5	3.4	12.0	0.0	0.0

防犯教育の実施状況が良好な小学校では「満足できるものではない」との回答は1割強であるが、他の校種は2割以上回答がみられる。特に高校の回答の12%は「まったく満足できるものではない」であった。

7 防災教育の実施状況について

「あてはまる」と回答した割合は下の通りである。

質問項目	校種 (数値は%)				
	小	中	高	盲ろう	養護
1. 防災教育を年間計画に組み入れている	98.9	100.0	96.2	100.0	94.1
2. 教科の中で実施している	17.6	21.2	16.0	22.2	14.7
3. 特別活動等で実施している	75.6	75.6	53.8	66.7	54.5
4. 地震発生を想定した避難訓練を実施している	100.0	100.0	76.0	100.0	100.0
5. 火災発生を想定した避難訓練を実施している	100.0	100.0	96.0	100.0	100.0
6. 引き取り訓練を実施している	95.7	14.0	12.0	77.8	88.2
7. 防災教育に消防関係者が参加している	82.2	65.1	57.7	100.0	82.4
8. 防災教育にPTA・保護者が参加している	74.7	34.5	7.7	44.4	67.6
9. 防災教育に地域住民が参加している	38.5	28.7	8.0	33.3	5.9
10. 防災教育に上記以外の講師等が参加している	19.2	14.3	8.0	33.3	15.2

防災教育は校種に関係なく全般的に実施率が高い。

8 防災教育の対象

質問項目	校種 (数値は%)				
	小	中	高	盲ろう	養護
1 全学年・全クラスで行っている	98.9	96.6	96.2	88.9	88.6
2 全学年で行っているが、全クラスは行っていない	0.5	2.3	3.8	0.0	2.9
3 特定の学年のみ全クラス行っている	0.0	1.1	0.0	0.0	0.0
4 特定学年の一部のクラスで行っている	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
5 特定の児童生徒に対してのみ行っている	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
6 その他	0.0	0.0	0.0	11.1	2.9
7 防災教育は行っていない	0.0	0.0	0.0	0.0	2.9

防災教育も防犯教育同様に、ほとんどの学校が全学年・全クラスで実施していた。

9 防災教育の内容

質問項目	校種 (数値は%)				
	小	中	高	盲ろう	養護
1 地震災害(津波を除く)と避難方法・身の守り方	97.4	97.7	73.1	100.0	82.9
2 津波災害と避難方法・身の守り方	5.3	2.3	11.5	0.0	2.9
3 雨・風による災害と避難方法・身の守り方	74.1	26.1	3.8	22.2	20.0
4 雷からの身の守り方	5.8	5.7	0.0	11.1	2.9
5 火山災害と避難方法・身の守り方	5.8	4.5	0.0	0.0	2.9
6 火災発生時の避難方法・身の守り方	92.6	98.9	88.5	100.0	94.3
7 火災につながる行動の防止	68.8	58.0	19.2	55.6	31.4
8 防災についての地域安全マップづくり	13.2	3.4	0.0	0.0	2.9
9 その他	1.1	1.1	0.0	0.0	2.9
10 防災教育は行っていない	0.0	0.0	0.0	0.0	2.9

防災教育の内容として取り上げられているのは地震災害と火災がほとんどであり、それ以外の災害が取り上げられることは少なく、指導内容には偏りがあり、地域安全マップづくりも防犯教育よりもかなり少ない。

10 防災教育の方法

質問項目	校種 (数値は%)				
	小	中	高	盲ろう	養護
1 教室での一斉指導	71.4	69.3	23.1	55.6	48.6
2 学年・全校単位での一斉指導	87.3	93.2	84.6	100.0	91.4
3 避難行動についてのロールプレイ	30.7	18.2	19.2	55.6	37.1
4 児童生徒同士による討論・話し合い	2.6	0.0	0.0	11.1	0.0
5 視聴覚機材を用いた指導	19.6	6.8	7.7	33.3	28.6
6 消防署等の学外講師による指導	61.4	42.0	46.2	66.7	48.6
7 子どもによる聞き取り調査	1.1	0.0	0.0	0.0	0.0
8 防災についての地域安全マップづくり	11.1	1.1	0.0	0.0	2.9
9 その他	1.1	1.1	3.8	0.0	2.9

防災教育も防犯教育同様に、教室での一斉指導よりも学年・全校単位での実施の方が多。また学外講師による指導が比較的高く、多様な教育方法が取り入れられる傾向はみられない。

11 防災教育推進上の課題

質問項目	校種 (数値は%)				
	小	中	高	盲ろう	養護
1 適切な教材がない	16.4	17.0	19.2	33.3	20.0
2 防災教育の時間を十分にとることができない	46.0	52.3	46.2	22.2	42.9
3 指導方法がよくわからない	7.4	6.8	11.5	11.1	2.9
4 教職員間の共通理解ができていない	3.2	5.7	15.4	0.0	17.1
5 PTA・保護者からの協力を得ることが難しい	3.2	4.5	3.8	11.1	0.0
6 関係諸機関からの協力を得ることが難しい	2.6	1.1	0.0	11.1	0.0
7 解決すべき差し迫った問題がない	10.1	6.8	11.5	0.0	8.6
8 教職員への研修の機会が少ない	20.1	25.0	30.8	22.2	25.7
9 その他	3.2	4.5	11.5	11.1	17.1
10 課題は特になし	17.5	14.8	0.0	11.1	8.6

防犯教育同様に時間確保がもっとも大きな課題となっている。それ以外の回答でも防犯教育と同様な結果がみられた。

12 防災教育取り組みへの満足感

質問項目	校種（数値は%）				
	小	中	高	盲ろう	養護
十分満足できる	4.9	4.6	0.0	0.0	2.9
おおよそ満足できる	63.2	51.7	26.9	66.7	61.8
どちらともいえない	24.9	31.0	50.0	22.2	20.6
あまり満足できるものではない	6.5	12.6	11.5	11.1	14.7
まったく満足できるものではない	0.5	0.0	11.5	0.0	0.0

防災教育は防犯教育よりも満足度が高い傾向がみられる。ただし高校において「まったく満足できるものではない」と回答した学校が約1割みられた。

まとめ

東京都ではセーフティ教室が実施されていることもあり、防犯教育・防災教育の実施状況は全般的に良好である。ただし校種による実施状況の違いがみられ、小学校での実施率が高い反面、校種が上がるにつれ実施率が下がる傾向がある。高校は最も実施率が低く、また取り組みへの満足度も低い。盲学校、ろう学校あるいは養護学校は実施状況そのものは良好なもの、課題を指摘する学校は多く、教材の開発や研修の実施など今後改善・充実すべき点も多い。

教育内容や教育方法では一斉教育や学外講師による指導が多く傾向がみられ、児童生徒が主体的に活動するような教育の実施は少なかった。また指導内容に偏りがみられ、指導されることがほとんどないと思われる内容もみられた。

犯罪や自然災害などの危険は学齢期のみならず、生涯に渡って出会う可能性がある。そのため、まれにしか発生しない犯罪・災害であっても指導する価値が見出せる。もしもという時に安全な意志決定・行動選択を可能とするためには、様々な危険を教材として、校種の特徴を考慮しつつ児童生徒が主体的に取り組む学習を取り入れることも重要と思われる。そのために必要なカリキュラム・教材開発が今後の中心的な課題となるであろう。